

一本表ハ北海道廳府縣本籍人ノ生年ヲ調査スルモノニシテ其調査ノ年ヲ
 首トシ以上年次ヲ逐ヒ明治慶應元治文久万延安政嘉永弘化天保文政文
 化享和寛政天明安永明和ニ溯リ年號何年生ト列記シ其生レタル年ニ從
 ヒ配偶ノ有無ヲ類別記入スヘシ例ヘハ明治十九年生ノ下欄ニハ同年一
 月一日ヨリ十二月三十一日マテニ出生シタル者ヲ記入スルカ如シ但戸
 籍編製以前逃亡失踪シ其生年詳ナラサル者アルトキハ年齢不詳ノ欄ニ
 記入スヘシ

一千島佐渡淡路隠岐壹岐對島大島鹿兒島縣小笠原島及伊豆七島ハ北海道廳
 府縣ノ總數表ニ掲ケタルノ外尙ホ本表ニ依リ各一表ヲ製スヘシ

第五 本籍出生死亡及婚姻表

明治 年中

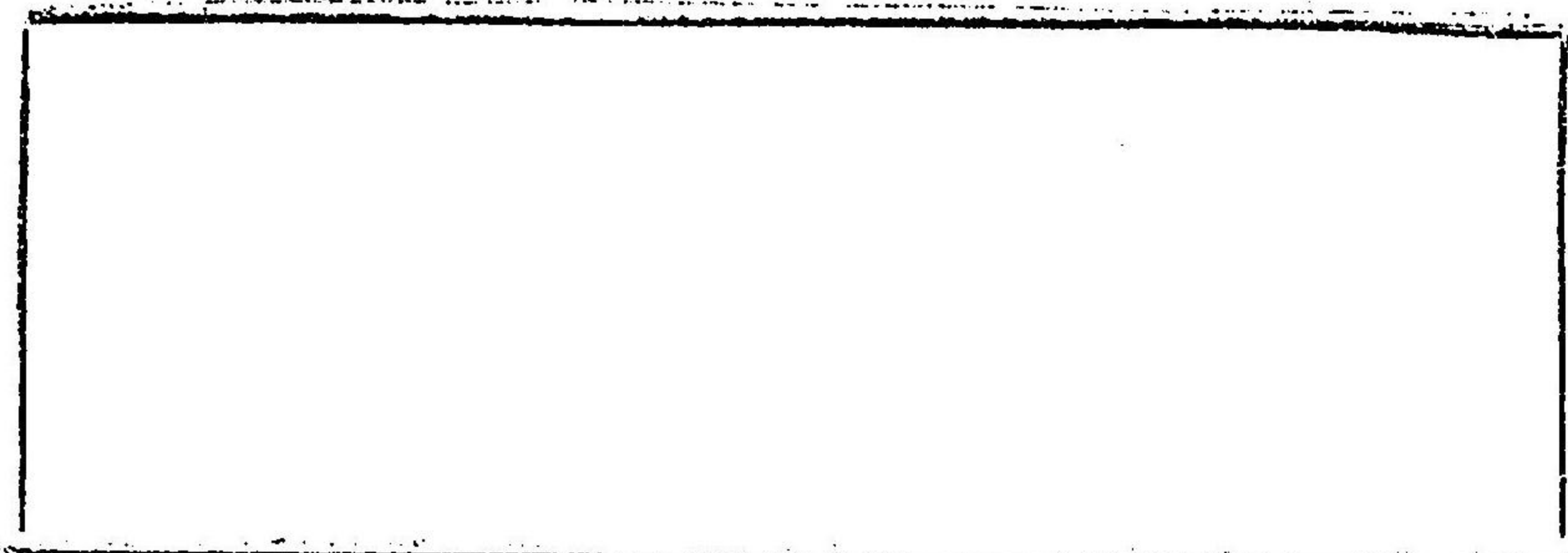
月次	出生				死亡			
	公生	私生	合計	公死	私死	合計	死亡	
一月	男	女	男	女	男	女	男	女
二月								

合計	結婚數												離婚數											
	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	月	計	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	月	計

○第二類○民法編○改正戶籍表

逃 亡 失 踪	他 府 縣 ヨ リ 入 籍	他 府 縣 へ 送 籍	籍			除			籍	
			合 計	外 國 へ 送 籍 者	重 籍 者	逃 亡 失 踪 滿 八 十 年 に 至 リ シ 者	明 治 十 八 年 以 前 死 亡 居 洩 者	合 計	外 國 ヨ リ 入 籍 者	無 籍 者

一出生居洩者ノ五欄ハ明治十九年ノ調査ニ於テハ十八年ヨリ十四年マテ



ナ記シ二十年ノ調査ニ於テハ十九年ヨリ十五年マテナ記スル如ク毎年線上クヘシ

一明治十四年以前ノ欄ニハ明治五年戸籍編製ヨリ十四年マテニ出生シテ居洩レタル者ヲ記入スヘシ

一無籍者ノ欄ニハ明治五年戸籍編製ノ時ヨリ無籍ニシテ本年ニ至テ初メテ籍ニ就キタル者ヲ記入スヘシ

一外國ヨリ入籍者ノ欄ニハ婚姻ニ依リ外國人ノ入籍シタル者ヲ記入スヘシ

一重籍者ノ欄ニハ一人ニシテ兩所ニ本籍チ有スルニヨリ一方チ削除シタル者ヲ記入スヘシ

一外國へ送籍者ノ欄ニハ婚姻ニ依リ外國へ送籍シタル者ヲ記入スヘシ

一逃亡失踪ノ欄ニハ本年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ逃亡失踪シタル者ヲ記入スヘシ

第八 耕作及捕魚採藻業戸數表 明治 年十二月三十一日現在

郡 區 名	自 耕		小 作		捕 魚 採 藻 業
	專 業 兼 業	自 作	專 業 兼 業	自 作	
	專 業 兼 業	自 作	專 業 兼 業	自 作	合 計
	捕 魚 採 藻 兼 業		捕 魚 採 藻 兼 業		合 計
	專 業 兼 業		專 業 兼 業		合 計
	捕 魚 採 藻 兼 業		捕 魚 採 藻 兼 業		合 計

○第一類○民法編○戸籍改正法

海軍下士卒(徴兵ハ除ク)戶籍上異動アルトキハ其都度下士ハ當省軍務局
へ卒ハ横須賀鎮守府へ届出ツヘシ
但本年(二月)乙第貳號達下士卒結婚ノ儀ハ此限ニ在ラス

○第二章 婚姻

○第一款 海軍武官結婚條例

▲明治十八年十一月海軍省達乙第拾四號

海軍武官結婚條例左ノ通被定候條此旨相達候事

府 縣
海軍 一般

海軍武官結婚條例別冊ノ通相定候條此旨相達候事

明治十八年十一月七日

太政大臣公爵三條實美

(別冊)

海軍武官結婚條例

- 第一條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官并ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ在テハ海軍卿ノ許可ヲ受ケ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 少尉補機關土補軍醫補主計補ハ年齡二十五歲以上ニ至ラサレハ結婚スルコトヲ許サス

第三條 下士卒ニシテ左ニ掲グル者ハ結婚スルコトヲ許サス

- 一年齡二十五歲未滿ノ者
- 一 徴兵令ニ據リ徴集シタル現役兵
- 一 若水兵若火夫

第四條 娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ニシテ年齡十六歲以上ノ者タルヘシ

第五條 結婚ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ第八條第一號書式ノ願書ニ第二

號書式ノ身元證書ヲ添テ出願スヘシ

第六條 將官并ニ同等官ノ願書ニハ海軍卿准士官以上ノ願書ニハ所管長

官下士卒ノ願書ニハ所轄長與書證印スヘシ

第七條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ

第八條 結婚願書式并ニ身元證書式ハ左ノ如シ

第一號書式

結婚願

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)
何番地華士族平民
何某何女(姉)妹

某

年月日生
年月何年何箇月

○第二類○民法編○海軍武官結婚條例

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致度候間御許可被下度別紙身元證書相
添此段奉願候也

年月日

官(職) 姓名 印

太政大臣(海軍卿)所管長官(宛)

前書ノ趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

海軍卿(所管長官)所轄長)

官 姓名 印

第二號書式

身元證書

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

何番地華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

年月日生
年月何年何箇月

右ハ行狀端正ノ者ニシテ年齢モ前書ノ通相違無之候此段致保證候也

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

戶長

姓名 印

○第二欸 下士卒ノ結婚

▲明治十九年二月海軍省達丙第九號

海軍一般

自今下士ノ結婚ハ軍務局へ卒ノ結婚ハ横須賀鎮守府へ其所管長ヨリ通知
スヘシ

▲明治十九年二月海軍省達乙第貳號

府 縣

下士卒ノ結婚ノ儀ハ自今届出ルニ及ハス

○第三章 財產

○第一欸 華族世襲財產法

▲明治十九年四月勅令第三拾四號

朕華族世襲財產法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三十四號

○第二類○民法編○下士卒ノ結婚○華族世襲財產法

華族世襲財產法

- 第一條 華族戸主滿二十年以上ノ者ハ此法ニ依リ世襲財產ヲ創設スルコトヲ得但滿二十年以下ノ者ト雖モ前代戸主ノ遺言アルトキハ世襲財產ヲ創設スルコトヲ得
- 第二條 世襲財產ハ總テ家督相續者ヲシテ之ヲ相續セシムルモノトス
- 第三條 世襲財產ハ左ニ掲クル所ノ二類ニ限ル但第十五國立銀行株券ハ第二類ニ準シ世襲財產ト爲スコトヲ得
- 第一類 田畑山林宅地鹽田牧場池沼等
- 第二類 政府發行ノ公債證書又ハ政府ノ保證若クハ特別ノ監督ニ屬スル銀行若クハ會社ノ株券
- 第四條 世襲財產ハ前條二類中ノ一種又ハ數種ニシテ其總額毎年金五百圓ニ下ラサル純收益ヲ生スル財產タルヘシ但其財產中收益ナキ地所ヲ加フルモ妨ケナシ
- 第五條 世襲財產ノ所有者ハ特ニ世襲スヘキ建物庭園圖書寶器等ヲ以テ世襲財產附屬物ト爲スコトヲ得
- 第六條 負債償却ノ義務アル財產ハ世襲財產及ヒ附屬物ト爲スコトヲ得ス

第七條 世襲財產ノ所有者ハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ其財產ヲ増加スルコトヲ得

第八條 世襲財產ノ所有者ハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ第二類ノ財產ヲ更換シテ第一類ノ財產ト爲スコトヲ得但第一類ヲ第二類ト爲スコトヲ得ス

第九條 第一類ノ財產若シ災害又ハ其他ノ事故ニ依リ第四條ノ制限額ヨリ減シタルトキハ五箇年以内ニ其缺額ヲ補充スヘシ

第十條 第二類ノ財產其元金ノ仕拂ヲ受ケタルトキハ一箇年以内ニ第一類又ハ第二類ノ財產ヲ以テ其缺額ヲ補充スヘシ

第十一條 世襲財產ノ所有者ハ其財產ノ純收益ヲ抵當トシテ負債ヲ爲スコトヲ得但毎年其純收益ノ三分一以上ノ償却ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ得ス

第十二條 世襲財產ノ純收益ハ如何ナル場合ト雖モ債主ヨリ毎年其三分一以上ヲ差押フルコトヲ得ス

第十三條 世襲財產及ヒ附屬物ハ之ヲ賣却讓與シ又ハ質入書入ト爲スコトヲ得ス

第十四條 世襲財產及ヒ附屬物ハ負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十五條 世襲財產ハ左ノ場合ニ於テハ其効力ヲ失フモノトス

○第二類○民法編○華族世襲財產法

一戸主死亡ノ後家督相續スヘキ男子ナキトキ

一尊ヲ奪ハレ又ハ族ヲ除カレ家督相續者ナキトキ

一第九條第十條ニ掲ケタル缺額ヲ其期限内ニ補充セサルトキ

第十六條 世襲財産及ヒ附屬物ハ其所有者ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得

第十七條 世襲財産ハ宮内大臣之ヲ管理シ華族局ヲシテ其事務ヲ取扱ハ

第十八條 華族局ハ世襲財産臺帳ヲ備ヘ置キ世襲財産及ヒ之ニ關スル事

第十九條 世襲財産ヲ創設増加更換又ハ補充セントスル者ハ其願書ニ財

第二十條 宮内大臣ハ前條ノ願書目錄ヲ審査シ第一類ノ財産及ヒ第二類

世襲財産附屬物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十一條 前條公告ヲ了リタル後三十日ヲ經テ該財産ニ關シ故障ヲ申
出ル者ナキトキハ宮内大臣ハ世襲財産臺帳ニ記入セシメ第一類ノ財産
ハ所轄ノ地方廳ニ命シ地券臺帳ニ記入セシメ地方廳ハ戶長ニ命シ公證
簿ニ記入セシムヘシ第二類ノ公債證書ハ所轄ノ地方廳ニ株券ハ銀行若
クハ會社ニ命シ帳簿ニ記入セシムヘシ
華族局ニ於テハ該地券又ハ公債證書若クハ株券ノ券面ニ世襲財産ト爲
リタル旨ヲ記入スヘシ

第二十二條 世襲財産其効力ヲ失ヒタルトキハ宮内大臣ヨリ地方廳又ハ
銀行若クハ會社ニ命シ之ヲ公告セシムヘシ

第二十三條 第二十條及ヒ第二十二條ニ關スル公告費用ハ其財産所有者
ヨリ之ヲ華族局ニ納ムヘシ

第二十四條 世襲財産ニ關スル事件ヲ協議スルカ爲メ戶主及ヒ滿二十年
以上ノ相續者若クハ後見人ト親屬三名以上トヲ以テ親屬會議ヲ組織シ
豫メ宮内大臣ニ届出ヘシ但親屬ナキトキハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ一族
又ハ他ノ華族ヲ以テ親族會議員ニ充ルコトヲ得

第二十五條 世襲財産ニ關スル願書屆書ハ親屬會議各員ノ連署ヲ要ス

第二十六條 此法施行ノ手續ハ宮内大臣之ヲ定ム
第二十七條 此法ハ明治十九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

○第二款 華族世襲財產法施行手續

▲明治十九年五月宮内省達乙第七號 北海道廳 府縣并華族一般

勅令第三十四號第二十六條ニ據リ華族世襲財產法施行手續左ノ通り定ム

華族世襲財產法施行手續

- 第一條 世襲財產ニ關スル願書及ヒ届書ハ宮内大臣ニ宛華族局ニ差出ス
- 第二條 世襲財產ノ創設ヲ願出ルトキハ地券、公債證書又ハ株券ハ華族局ニ差出シテ點檢ヲ受ケ又ハ華族局員ノ臨檢ヲ受ケヘシ
- 第三條 前條差出シタル物件ハ華族局ニ留置キ其願ヲ許否スルノ日ニ至リ下戻スヘシ但時宜ニ依リ點檢ノ上直ニ下戻スコトアルヘシ
- 第四條 前代戸主ノ遺言ニ據リ世襲財產ノ創設ヲ願出ルトキハ其後見人連署ノ上創設ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 法第五條ニ據リ世襲財產附屬物ト爲スヲ得ヘキモノハ左ノ各項

- ニ相當スルモノトス
 - 一 稀世ノモノ
 - 一 其家ニ由緒アルモノ
 - 一 觀古ノ參考トナルヘキ貴重ノモノ
- 第六條 法第二十一條ニ掲グル日限ヲ經過シタルトキハ地方廳又ハ銀行若シハ會社ハ直ニ該財產ニ關スル故障申立ノ有無ヲ宮内大臣ニ上申スヘシ

第七條 宮内大臣ハ地方廳又ハ銀行若シハ會社ノ上申ニ據リ不都合ナシト認ムルトキハ法第二十一條ノ手續ヲ爲シ尙ホ華族局ヲシテ其旨ヲ官報ニ掲ケ公告セシムヘシ

第八條 華族局ハ世襲財產トナリタル地券、公債證書又ハ株券ノ各券面ニ「爲華族世襲財產」ノ印章ヲ押捺シ番號及ヒ年月日ヲ記入スヘシ

第九條 世襲財產ヲ創設セントスルモノハ豫メ相當ノ親屬會議員ヲ選定シテ届出ヘシ若シ親屬ナキトキハ一族又ハ華族中ヨリ選定シテ願出ヘシ其補缺又ハ改選ヲ要スルトキ亦同シ

第十條 家督相續者世襲財產ヲ相續シタルトキハ地方廳又ハ銀行若シハ會社ニ於テ地券、公債證書又ハ株券ノ書換若シハ裏書ヲ受ケ速ニ其旨

○第二類○民法編○華族世襲財產法施行手續

ヲ届出ヘシ

第十一條 第一類ノ地目ヲ變換セントシ又ハ免租地ヲ有租地ト爲サントシ或ハ有租地ヲ免租地ト爲サントシ若クハ開墾セントスルモノハ先ツ宮内大臣ノ認可ヲ經テ一般ノ手續ニ遵フヘシ

第十二條 第一類ノ財産災害又ハ其他ノ事故ニ因リ其收入ヲ減シタルトキハ事由ヲ具シテ届出ヘシ其第二類ノ財産ニ於ケル亦同シ

第十三條 第一類ノ財産公用ニ因リ買上ラレ又ハ第二類ノ財産元金ノ支拂ヲ受ケタルトキハ直ニ其金額ヲ驛遞局貯金預所、日本銀行又ハ第五國立銀行ヘ預ケ入レ其預金證書ヲ華族局ヲ經テ内藏寮ヘ預ケ置キ其補充財産購求ノ時ニ至リ下渡ヲ願出ヘシ

第十四條 世襲財産ニ關シ必要ト認ムルコトアルトキハ華族局員ヲ派遣シテ臨檢セシムヘシ但時宜ニ依リ地方廳ニ命シ該廳官吏ヲシテ臨檢セシムルコトアルヘシ

第十五條 地券、公債證書又ハ株券毀損亡失等ノ故ヲ以テ再渡又ハ書換ヲ受ケタルトキハ之ヲ華族局ニ差出シテ第八條ニ掲グル券面ノ記入ヲ受クヘシ

第十六條 世襲財産附屬物ヲ毀損亡失シ又ハ亡失シタルモノヲ發見シタ

ルトキハ其事由ヲ届出ヘシ

第十七條 世襲財産其効力ヲ失ヒタルトキハ法第二十二條ノ公告ヲ爲サシムルト同時ニ其旨ヲ所有者及ヒ親屬會議員ニ達スヘシ

第十八條 前條ノ達ヲ受ケタルモノハ直ニ地券、公債證書又ハ株券ヲ華族局ニ差出シ其券面記入ノ取消ヲ受クヘシ

第十九條 法第二十二條第二十二條ニ據リ公告ヲ爲シタルトキ地方廳又ハ銀行若クハ會社ハ其費用計算書ヲ以テ華族局ニ請求スヘシ華族局ハ計算書ヲ取纏メ其納金方ヲ所有者又ハ親屬會議員等ニ達スヘシ

第二十條 前條納金方ノ達ヲ受取リタルモノハ三日以内ニ納金證書ニ現金又ハ爲換手形ヲ添ヘ華族局ニ上納スヘシ華族局ハ直ニ之ヲ地方廳又ハ銀行若クハ會社ニ送付スヘシ

第二十一條 遠隔ノ地方ニ在ル地方廳又ハ銀行若クハ會社ニ於テ公告ヲ爲シ所有者其地方ニ在ルトキハ地方廳又ハ銀行若クハ會社ハ其費用計算書ヲ以テ直ニ所有者ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ所有者ハ三日以内ニ之ヲ納付シ其受取書ヲ納金證書ニ添ヘ速ニ華族局ニ届出ヘシ

第二十二條 世襲財産ニ關スル諸願届ハ左ノ書式ニ準據スヘシ
用紙美濃紙願書
財產目録ハ各二通届書ハ一通

世襲財産親屬會議員届

七百九十四

何府何國何區何町何番地何族(平民)
當時何縣何國何郡何村何番地寄留

私何(續柄ヲ記スヘシ以下同シ)

氏名印

何府何國何區何町何番地何族(平民)
當時何縣何國何郡何村何番地寄留

私何

氏名印

何府何國何區何町何番地何族(平民)
當時何縣何國何郡何村何番地寄留

私何

氏名印

右何名私世襲財産ニ關スル親屬會議員ト相定メ候間此段御届仕候也

年月日

位爵氏名印

宮内大臣爵氏名殿

世襲財産親屬會議員願

何府何國何區何町何番地何族(平民)

當時何縣何國何郡何村何番地寄留

(一族ナレハ其旨ヲ記載スヘシ以下同シ)

氏名印

何府何國何區何町何番地何族(平民)

當時何縣何國何郡何村何番地寄留

氏名印

私儀何々(親屬無之又ハ「親屬何名ノ外」ニ付右ノ者ヲ以テ世襲財産ニ關スル親屬會議員ニ相充テ度候間御認可被下度此段奉願候也)

年月日

位爵氏名印

宮内大臣爵氏名殿

○第二類○民法編○華族世襲財産法施行手續

七百九十五

世襲財産創設願

私所有別紙目録ノ財産ヲ以テ(前代某ノ遺言ニ據リ)世襲財産ヲ創設致度
候間御審査ノ上御認可被下度親屬會議員連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日

位 爵 氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

宮内大臣爵氏名殿

財産目録

第一類第一號

何府何國何區何町何番字何
一田何段歩

一田何段歩

此收穫何何程

(一作兩毛作共其地一歲ノ
收穫ヲ記スヘシ以下同シ)

地價金何程

此代金何程

但一石ニ付(代金算出法ハ前五ヶ年間其
金何程(地方一定ノ平均相場ニ據ル)
ヘシ以下同シ)

此小作(金)米)何程

(米ナレハ代金ヲ付スヘシ)

内

金何程

國稅地方稅區町村費

差引殘

金何程

純收益

(自作地ハ其收穫ノ多少ニ拘ハラヌ小作地ト看做シ近傍類地ノ小作
地ニ準シ其小作金ヲ算出記載スヘシ畑以下同シ)

同第何號(以下號ヲ逐フテ記スヘシ)

何府何國何區何町何番字何

一畑何段歩

地價金何程

此收穫何何程

但何程ニ付
金何程

此代金何程

此小作(金)穀)何程

(穀ナレハ代金ヲ付スヘシ)

内

國稅地方稅區町村費

金何程

差引殘

金何程

純收益

同第何號

○第二類○民法編○華族世襲財産法施行手續

何府何國何區何町何番字何
一山林何町段步

此收入(賃料)金何程

(收入金ハ植付伐採其他ノ諸雜
費ヲ差引タルモノヲ舉クヘシ)

地價金何程

差引殘

金何程

同第何號

何府何國何區何町何番地

一宅地何段步

此收入金何程

地價金何程
賃地代

內

金何程

國稅、地方稅、區町村費

差引殘

金何程

純收益

同第何號

何府何國何區何町何番地

一宅地何段步

地價金何程

此建家何坪

此貸家賃金何程

內

金何程

改築積立金

金何程

臨時修繕費

小以金何程

家屋ニ係ル地方稅、區町村費

差引殘

金何程

國稅、地方稅、區町村費

內

金何程

差引殘

金何程

純收益

自己ノ所有地へ自ラ家作シ賃屋賃ヲ得ルモノハ右書式ニ據ル

○第二類○民法編○華族世襲財產法施行手續

同第何號	何府何國何區何町何番地	他價金何程
一宅地何段步	此建家何坪	改築積立金
此貸家賃金何程	內	臨時修繕費
金何程	小以金何程	家屋ニ係ル地方稅區町村費
金何程	差引殘	貸地代
金何程	二口合金何程	國稅地方稅區町村費
內	金何程	

差引殘	純收益
金何程	同番地ヨリ貸家賃ト貸地代トヲ得ルモノハ右書式ニ據ル
同第何號	何府何國何區何町何番字何
一鹽田何町段步	此收入(賃料)金何程
內	(收入金ハ製鹽ニ關スル諸雜費)
金何程	國稅地方稅區町村費
差引殘	純收益
金何程	同第何號
何府何國何區何町何番字何	一牧場(池沼)何町段步
此收入(賃料)金何程	內
金何程	國稅地方稅區町村費
同第何號	何府何國何區何町何番字何
一牧場(池沼)何町段步	此收入(賃料)金何程
內	(收入金ハ牧畜養魚等ニ係ル諸雜費)
金何程	國稅地方稅區町村費

○第二類○民法編○華族世襲財產法施行手續

差引殘
金何程

純收益

同第何號

何府何國何區何町何番地
何縣何國何郡何村何番地

一何何段歩
一何何坪

地價金何程

收入無之

(收入ナキ地所ハ右ノ如ク記載スヘシ尤モ前各項ニ照シ必要ノ件アレハ記載スヘシ)

第二類第一號

記號
番號

一何公債證書

額面何程

此利子金何程

同第何號

記號
番號

一何公債證書

額面何程

此利子金何程

同第何號

番號

一何(銀行)(會社)株式何株

資金何程

此割賦金何程

但一株ニ付
金何程

(割賦金ハ保證アルモノハ保證利子ヲ用ヒ保證ナキモノハ創立以來
割賦平均額ヲ用ユヘシ)

同第何號

番號

一何(銀行)(會社)株式何株

資金何程

此內拂込資金何程

但全拂込一株ニ
付金何程ノ割

右記載ノ庶相違無之且負債償却ノ義務無之候也

年 月 日

右所有主

位 爵 氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

附屬物目錄

附屬物第一號

何府何國何區何町何番地
何縣何國何郡何村何番地

○第二類○民法編○華族世襲財產法施行手續

一 建物

(構造ノ概略并由緒ヲ詳記シ略圖ヲ添フヘシ)

内 譯

何嘗何作建物

何嘗何作建物

合何坪

同第何號

何府何國何區何町何番地

一庭園

周圍凡何間

壹箇所

(由緒并著明ノ木石ヲ詳記シ略圖ヲ添フヘシ)

同第何號

一何 (書名)

但何冊

壹部

(由緒アルモノハ詳記スヘシ以下同シ)

同第何號

一何

何(冊)(卷)(幅)(枚)

同第何號

一何 (玉名)

壹顆

(寶玉ハ色合及ヒ形狀寸方等ヲ詳記スヘシ)

同第何號

一何

壹顆

同第何號

一何 (器名)

壹箇

同第何號

一何

壹組

右記載ノ廉相違無之且負債償却ノ義務無之候也

年 月 日

右所有主

位 爵 氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

世襲財産増加願

私所有別紙目錄ノ財産ヲ以テ世襲財産ヲ増加致度候間御審査ノ上御認可
被下度親屬會議員連署ヲ以テ此段奉願候也

年 月 日

位 爵 氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

宮内大臣爵氏名殿

世襲財產更換願

第一類第何號
 何府何國何區何町何番地字何
 一何何段步
 第二類第何號
 記號
 番號
 一何公債證書額面何圓
 第二類第何號
 番號
 一何(銀行)(會社)株券何圓
 私世襲財產ノ内右ニ記載スル財產何々(更換ノ事由)ニ付今般別紙目錄ノ
 財產ト更換致度候間御審査ノ上御認可被下度親屬會議員連署ヲ以テ此段
 奉願候也

年月日

位 爵 氏 名 印

宮内大臣爵氏名殿

(親屬會議員連署スヘシ)

世襲財產(災害)(事故)届

第一類第何號
 何府何國何區何町何番地字何
 一何何段步
 第二類第何號
 記號
 番號
 一何公債證書額面何圓
 第二類第何號
 番號
 一何(銀行)(會社)株券何圓
 私世襲財產ノ内右ニ記載スル財產年月日何々(災害又ハ事故)候ニ付(第
 類ノ財產ハ繪圖面)親屬會議員連署ヲ以テ此段御届仕候也
 年月日 位 爵 氏 名 印

宮内大臣爵氏名殿

(親屬會議員連署スヘシ)

○第二類○民法編○華族世襲財產法施行手續

世襲財産補充願

第一號第何號

何府何國何區何町何番地字何

一何何段歩

第二類第何號

記號

番號

一何公債證書額面何圓

第二類第何號

番號

一何(銀行)(會社)株券何圓

私世襲財産ノ内右ニ記載スル財産年月日何々(缺額ヲ生シタル事由ヲ記スヘシ)ニ因リ其收入(減少)制限額ヨリ減少候ニ付別紙目錄ノ財産ヲ以テ補充致度候間御審査ノ上御認可被下度親屬會議員連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日

位 爵 氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

宮内大臣爵氏名殿

世襲財産元金御預願

第二類第何號

記號

番號

一何公債證書額面何圓

第二類第何號

番號

一何(銀行)(會社)株券何圓

私世襲財産ノ内右ニ記載スル財産年月日元金仕拂ヲ受ケ候間追テ補充財産購求候迄内藏寮へ御預ケ仕度即(驛遞局貯金預所)(日本銀行)(第十五國立銀行)ノ預リ金證券(第何號券面何程)相添親屬會議員連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日

位 爵 氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

宮内大臣爵氏名殿

世襲財産資金御預願

第一類第何號

○第二類○民法繼○華族世襲財産法施行手續

何府何國何區何町何番地字何

一何何段歩

私世襲財產ノ内右ニ記載スル財產年月日公用ノ爲メ代金何程ヲ以テ御買上相成候間追テ補充財產購求候迄内藏寮へ御預ケ仕度即(驛遞局貯金預所(日本銀行)(第十五國立銀行)ノ預リ金證券(第何號券面何程)相添親屬會議員連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日

位 爵 氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

宮内大臣爵氏名殿

預金御下渡願

一金何圓

但(驛遞局貯金預所(日本銀行)(第十五國立銀行)第何號預金證券右ハ今般世襲財產缺額補充ノ爲メ別紙目錄ノ財產ヲ購求致度候間御下渡相成度親屬會議員連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日

位 爵 氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

宮内大臣爵氏名殿

世襲財產地目變換願

第一類第何號

何府何國何區何町何番地字何

一何何段歩

私世襲財產ノ内右ニ記載スル財產何々(地目ヲ變換セントス)ニ付今般何ニ變換致度候間御認可被下度親屬會議員連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日

位 爵 氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

宮内大臣爵氏名殿

世襲財產地種組替願

第一類第何號

何府何國何區何町何番地字何

一何何段歩

私世襲財產ノ内右ニ記載スル財產(免)有租地ニ有之候處何々(事由ヲ記スヘシ)ニ付(免)租地ニ組替度候間御認可被下度親屬會議員連署ヲ以

○第一類○民法編○華族世襲財產法施行手續

此段奉願候也

年月日

位 爵氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

宮内大臣爵氏名殿

世襲財産地所開墾願

第一類第何號

何府何國何郡何町何番地字何

一何何段歩

私世襲財産ノ内右ニ記載スル財産何々(事由ヲ記スヘシ)ニ付開墾致度候間御認可被下度親屬會議員連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日

位 爵氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

宮内大臣爵氏名殿

世襲財産(地券)(公債證書)(株券)書換濟届

私儀今般世襲財産ヲ相續シ(地券)(公債證書)(株券)書換(裏書)相濟候間親屬會議員連署ヲ以テ此段御届仕候也

年月日

位 爵氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

宮内大臣爵氏名殿

世襲財産(燒失)(紛失)(遺失)(盜難)届

附屬物第何號

一何

壹箇

右年月日何々候ニ付親屬會議員連署ヲ以テ此段御届仕候也

年月日

位 爵氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

宮内大臣爵氏名殿

世襲財産附屬物發見届

附屬物第何號

一何

壹箇

右年月日何々候旨御届仕置候處今般發見候間事由書相添親屬會議員連署ヲ以テ此段御届仕候也

年月日

位 爵氏 名 印

(親屬會議員連署スヘシ)

○第一類○民法編○華族世襲財産法施行手續

宮内大臣爵氏名殿

世襲財産親屬會議員(補缺)(改選)届

府何國何區何町何番地何族(平民)

當時何府何國何區何町何番地寄留

私何

氏名印

私世襲財産ニ關スル親屬會議員氏名何々(事故)ニ付右ノ者ヲ(以テ補缺)
(改選)仕候間親屬會議員連署ヲ以テ此段御届仕候也

位爵氏名印

(親屬會議員連署スヘシ)

宮内大臣爵氏名殿

世襲財産親屬會議員(補缺)(改選)願

府何國何區何町何番地何族(平民)

當時何府何國何區何町何番地寄留

氏名印

私世襲財産ニ關スル親屬會議員氏名何々候處親屬無之ニ付右ノ者ヲ(以
テ補缺)(改選)仕候間御認可被下度親屬會議員連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日 位爵氏名印

(親屬會議員連署スヘシ)

宮内大臣爵氏名殿

納金證書

一金何圓

但世襲財産公告費

右上納仕候也

年月日 位爵氏名印

華族局長官爵氏名殿

○第四章 雜令

○第一款 北海道移住者渡航手續

▲明治十八年十二月布達第貳拾貳號

明治十六年(四月)第拾號布達北海道轉籍移住者手續第四條第一項第七條
及ヒ渡航允許證票裏書第二項ニ三菱會社共同運輸會社トアルヲ日本郵船

○第二類○民法編○北海道移住者渡航手續○
北海道移住者渡航手續細節

會社ト改ム
右布達候事

○第二款 北海道移住者
渡航手續細節

▲明治十八年十二月農商務省達第四拾四號 府 縣

明治十六年(六月)第六號達北海道轉籍移住者渡航手續細節第三項ニ三菱
會社共同運輸會社トアルヲ日本郵船會社ト改ム此旨相達候事

現行
類聚 日本法律規則大全第三編 上卷畢

現行
類聚 日本法律規則大全第三編 下卷

高木周次編纂

○第三類 商法編

○第一章 組合

○第一款 同業組合準則

▲明治十八年八月農商務省達第三拾五號 府 縣

客歲(十一月)本省達第三十七號同業組合準則ハ專ラ管下重要物産ノ改其
蕃殖ニ關スル農商工業者ノ組合ニ限リ適用スル儀ト可心得此旨更ニ相達
候事

○第二款 茶業組合準則

▲明治十九年二月內務省達第貳號 府 縣

明治十七年(三月)兩省第四號達ニ據リ茶業組合規約認可ノ上農商務省へ
届出ノ處自今取締所ニ係ルモノ、外ハ届出ニ及ハス

○第三類○商法編○同業組合準則○茶業組合準則 八百十七

同號達茶業組合準則第三條第二項ノ次へ左ノ一項ヲ追加シ第三項ヲ第四項トス

追加

第三項 製茶検査法ヲ設ケ其正否ヲ鑒別スルコト

○第三款 漁業組合準則

▲明治十九年五月農商務省令第七號

北海道廳 府 縣 沖繩縣

漁業組合準則左ノ通相定ム依テ此準則ニ基キ組合ヲ設置セシメ其規約認可ノ上當省へ届出ヘシ

漁業組合準則

第一條 漁業 水産動物採ニ從事スルモノハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ

規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

但漁者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ管轄廳ノ見込ヲ以テ組合ヲ要セサルコトアルヘシ

第二條 組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ目途トスヘシ

第三條 組合ハ左ノ二類トス

第一類 捕魚採藻 遠海漁業若クハ大地引臺 各其種類ニ從ヒ特ニ組合ヲ網捕鯨鯨魚昆布採收ノ類

ナスモノ

第三類 河海湖沼沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲナス

モノ

第四條 前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スルモノハ必ス一組合トナスヘシ

第五條 組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

一 組合ノ名稱及事務所ノ位置

二 組合ノ目的

三 役員選舉法及權限

四 會議ニ關スル規程

五 加入者及退去者ニ關スル規程

六 違約者處分ノ方法

七 費用ノ徵收及賦課法

八 捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル事

九 漁具漁法及採藻ノ制限ヲ立ル事

十 漁場區域ニ關スル事

十一 前各項ノ外組合ニ於テ必要トナシ事項

○第三類○商法編○漁業組合準則

管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

第七條 組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り若クハ之ヲ更正セントスルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

第八條 二府縣以上ニ渉ル組合及聯合會ノ規約ハ交渉管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ

但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキモ亦本條ニ準スヘシ

第九條 二府縣以上ニ渉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設ケ其他ハ每府縣事務所支部ヲ置クヘシ

但支部ハ組合ノ事情ニ依リ其必要ナラサル場合ニ於テハ之ヲ置カサルヲ得

○第四款 蠶絲業組合準則

▲明治十八年十一月農商務省達第四拾壹號

府 縣

蠶絲業組合準則左ノ通相定候條該準則ニ基キ組合爲相立其規約認可ノ上取締所ニ係ルモノハ當省へ可届出此旨相達候事

蠶絲業組合準則

第一條 蠶絲業ニ從事スルモノハ郡區又ハ町村ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置スヘシ

但自用ノミニ供スル者ハ此限ニ非ス

第二條 組合ノ名稱ハ何府郡區縣下何町村蠶絲組合ト稱スヘシ

第三條 組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ

第一項 繭ハ春夏秋若クハ黃白ノ種類又ハ太陽殺蒸殺燥殺等混淆シタルモノヲ賣買セサル事

第二項 製絲ニ最モ良好ナル種類ヲ育養スル事

第三項 桑樹ノ栽培繭兒ノ養法ヲ全良ナラシムル事

第四項 繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムル事

第五項 繭卵ノ検査法ヲ設ケ蠶病ヲ豫防スル事

第六項 繭荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事

第七項 一捆ハ勿論一絕若クハ一把中良否混淆等ノモノヲ製造販賣セサル事

但等級ヲ區分シテ一捆トナシタルモノハ此限ニアラス

第八項 生絲ノ製造及結束ニ不正ノ重量ヲ付シ賣買セサル事

○第三類 ○商法編 ○蠶絲業組合準則

第九項 綫取アル揚籃ヲ用ヒ尺度ナ一様ナラシムル事

第十項 生絲ノ結束及總ノ量目ナ一様ナラシムル事

第十一項 提造島田折返造等ノ生絲ヲ揚返サスシテ其儘改造賣買セサル事

第十二項 生絲檢査法ヲ設ケ其精粗ヲ監別シ及ヒ製造上ノ弊害ヲ矯正スル事

第十三項 生絲荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事

第十四條 各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ擔任セシムヘシ

第十五條 組合員ハ必其組合ノ證票ヲ携帯スヘシ但證票ニハ管轄地方廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第十六條 組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ檢査スヘシ

第十七條 各府縣下便宜ノ地ニ取締所ヲ置キ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監査スヘシ

第十八條 取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互選スヘシ

第十九條 組合及取締所ニ關スル費用收支ハ各組合員集議ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 全國中便宜ノ地ニ蠶絲組合中央部ヲ設ケ各地方蠶絲組合取締所ノ氣脈ヲ聯通スヘシ

第十一條 蠶絲組合中央部ノ規約ハ當省ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 蠶絲組合中央部ノ役員ハ各地方蠶絲組合取締所ノ役員中ヨリ互撰スヘシ

但時宜ニヨリ役員外ノ者ト雖モ之ヲ選舉スルヲ得

第十三條 蠶絲組合中央部ノ費用收支ハ各地蠶絲組合取締所役員ノ集議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條 右各條ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設ケル事ヲ得

○第二章 專賣

○第一款 專賣免許料收納手續

▲明治十八年六月大藏省達第貳拾貳號

府 縣

今般第七號專賣特許條例公布相成候ニ就テハ專賣免許料收納手續左ノ通可相心得此旨相達候事

○第三類 ○商法編 ○專賣免許料收納手續

專賣免許料收納手續

一專賣特許條例第七號免許料ハ出願者ニ於テ明治十七年大藏省第四拾壹號達國稅金收納順序ニ依リ第貳號ノ切符ヲ以テ郡區長ニ納メ郡區長之ヲ預リ置其旨收稅長ニ報道シ追テ特許證若クハ指令願書到達ノ上成規ノ手續ヲ以テ同省ニ納附スヘシ

但免許料ヲ返付スヘキ場合ニ於テハ同年大藏省第四拾貳號達ニ依ルヘシ

一右免許料ハ特許證若クハ指令願書ノ日附讓與分與ハ特許ヲ以テ年度ヲ區分スヘシ

一收納セシ免許料ハ半ケ年ツ、區分シ別紙雛形ノ通明細表ヲ調製シ十月十五日限リ農商務省ヘ差出スヘシ

但十八年度ハ半ケ年ツ、ニ區分セス四月十五日限リ差出スヘシ

明治何年 四月ヨリ九月マテ 專賣免許料明細表
十月ヨリ三月マテ

何府何區何町何番地
何縣何郡何村

氏名

年月日	發	明使	用追	加讓	與分	與再	渡免許料
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日
一十五年	一個				一個		貳拾圓
		五年一個			一個		拾圓
					一個		五圓
計	一個				一個		參拾五圓

全上 氏名

年月日	發	明使	用追	加讓	與分	與再	渡免許料
何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日	何年何月何日
五年一個							拾圓
		十年一個					拾五圓
			一個				五圓

○第三類○商法編○專賣免許料收納手續

第十五條 納稅及積金ノ規則

第一節 會所ハ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ税金ヲ納ムヘシ
右奉 勅旨布告候事

○第二款 米商會所收稅規則

▲明治十八年十一月布告第三拾八號

米商會所并株式取引所收稅規則左ノ通制定シ明治十八年十二月一日ヨリ施行ス

但明治十一年(九月)第二拾號布告明治十五年(十二月)第六拾五號布告及同年(同月)第六拾七號布告ハ明治十八年十二月一日ヨリ廢止ス

米商會所并株式取引所收稅規則

第一條 會所并取引所ノ税金ハ左ノ割合ニ從ヒ每一ヶ月分ヲ翌月十日マテニ地方廳ニ上納スヘシ

米穀定期賣買

賣買各約定代金高 千分ノ二
賣買各約定代金高

公債證書定期賣買

諸株式定期賣買

萬分ノ三
賣買各約定代金高 萬分ノ六

第二條 定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣買戻ニ係ル税金ハ免除ス

第三條 賣買ヲ解約スルコトアルモ其税金ハ之レヲ還付セス

第四條 大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢査セシムヘシ

第五條 會所并取引所ニ於テ賣買約定ノ代金高ヲ詐リ脫稅シタルトキハ頭取ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其會所并取引所ヨリ其脫稅ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ
右奉 勅旨布告候事

○第三款 米商會所仲買人認許規程

▲明治十八年十二月農商務省告示第貳拾四號

明治十六年當省第六號告示 米商會所仲買人認許規程中第四項ヲ刪除シ第三項ヲ左ノ通改正ス

○第三類 ○商法編 ○米商會所收稅規則 ○米商會所仲買人認許規程

第三項 米商會所並株式取引所仲買人へ認許證ヲ下付シタルトキハ認許料ヲ地方廳へ納付シ地方廳ヨリ農商務省へ上納スヘシ
右告示候事

○第四章 株式

○第一款 株式取引所條例

▲明治十八年十一月布告第三拾七號

明治十一年(五月)第八號布告株式取引所條例第七章第四十一條左ノ通改正シ明治十八年十二月一日ヨリ施行ス

第七章 手数料ノ事

第四十一條 取引所ニ於テ賣買者雙方ヨリ領收スヘキ手数料ハ取引所ニ於テ相當ノ額ヲ定メ大藏卿農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ
右奉 勅旨布告候事

○第二款 株式取引所收稅規則

(商法編第三章 第二款ニ掲出ス)

○第三款 株式取引所仲買人認許規程

(商法編第三章 第三款ニ掲出ス)

○第四款 金銀貨幣取引禁止

▲明治十八年十一月布告第三拾九號

明治十二年(九月)第三拾七號第三拾八號布告及同十六年(七月)第貳拾五號布達ヲ以テ東京大阪横濱神戸各株式取引所ニ於テ當分金銀貨幣取引差許置候處明治十九年一月一日ヨリ右取引ヲ禁止ス
右奉 勅旨布告候事

○第五章 酒造

○第一款 酒造稅則取扱心得書

▲明治十八年十一月大藏省達第七拾六號 府 縣 北海道三縣及ヒ 沖繩縣ヲ除ク

明治十七年當省第六拾四號達酒造稅則取扱心得書第二十七項及ヒ明治十八年當省第貳拾貳號達醬油稅則取扱心得書第十七項中入實洞徑以上ニアル端桶石數ノ算出法自今左之通更正ス

入實洞徑ヨリ以上ニアルキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス 此底徑ヲハ口徑ヨリ洞徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シ二倍シ全 求ムルニ 深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス
假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス
假定ノ底徑ト口徑ト相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇・〇四〇三八四四 乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度

○第三類 ○商法編 ○株式取引所條例 ○金銀貨幣取引禁止
○酒造稅則取扱心得書 ○醬油輸出稅下戻手續 八百三十一

ハ分位ニ止メ尺位ヲ
一位トス以下準之
チ乘シ得ル數ヲ桶面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石
數ヲ得ル
右相達候事

○第六章 醬油

○第一款 醬油輸出稅下戻手續

▲明治十八年七月布達第拾四號

本年(五月)第拾號布告醬油稅則第十二條ニ據リ外國ニ輸出スル醬油ニ對シ造石稅金下戻ノ手續左ノ通相定ム

第一項 外國輸出ニ係ル醬油ノ稅金下戻ヲ請ントスルトキハ甲號書式ノ願書ニ通テ輸出港稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ經テ檢査濟ノ證明書ヲ受クヘシ

第二項 造石稅金ノ下戻ヲ請フニハ乙號書式ノ願書ニ輸入港在留領事ノ檢印ヲ受ケタル陸揚免狀若クハ其他ノ書類領事不在ノ港ニ於テハ該港稅關ノ通關證書若クハ其陸揚セシ證及當初輸出港稅關ノ證明書ヲ添ヘ該稅關ニ差出スヘシ

第三項 外國ニ輸出シ造石稅金ノ下戻ヲ受タル醬油ヲ更ニ輸入スルト

キハ丙號書式ノ屆書ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

右布達候事

甲號書式

檢査願書

一醬油

記號

箇數

石數

造石稅金

製造地

右ハ何國何船ヲ以テ何國何港ニ輸出致候ニ付御檢査相願候也

輸出入住所

年月日

姓名

某稅關長宛

乙號書式

造石稅金下戻願書

○第三類 ○商法編 ○醬油輸出稅下戻手續

一 醬油

何石

此造石税金 何圓

右ハ明治何年何月何日何國何港へ輸入致候ニ付該造石税金御下戻有之度因テ輸入港陸揚免狀(或ハ陸揚ノ證憑書)及檢査濟御證明書共相添此段相願候也

輸出人住所

姓 名

年 月 日

某税關長宛

丙號書式

造石税金上納書

一 醬油

何石

此造石税金 何圓

記 號

箇 數

造石税金下戻年月日

當初輸出港

仕出港

右再輸入致候ニ付書面ノ通造石税金上納仕候也

輸入人住所

姓 名

年 月 日

某税關長宛

○第二款 醬油醪貯藏心得

▲明治十八年九月大藏省達第六十七號

府縣 北海道三縣及
沖繩縣ヲ除ク

醬油醪ノミ貯藏場所等ノ件自今左ノ通り相心得ヘシ

一 醬油醪ノミ貯藏スル場所ハ製造場區域外ト雖モ税則取扱心得書第三項

但書ニ準據スヘシ

一 營業中都合ニ依リ醬油醪ヲ營業者ニ賣渡スハ差支ナシ

但本文ノ場合ニ於テハ賣渡人ヨリ其趣届出シメ檢査員ノ證明書ヲ添

付シ更ニ買受人ヨリ其地ノ檢査員ニ申出檢査ヲ受ケシムヘシ

右相達候事

○第三款 醬油稅則取扱心得書

▲明治十九年五月大藏省訓令第二拾號

府縣 沖繩縣
ヲ除ク

○第二類 ○商法編 ○醬油醪貯藏心得 ○醬油稅則取扱心得書 八百三十五

明治十八年(五月)當省第二十二號達醬油稅則取扱心得書第十九項左ノ通更正ス

第十九項 稅則第八條醬油製成トハ搾リ上ケタルトキ又ハ火入ヲ要スルモノハ其火入ヲ爲シタルトキ及ヒ搾リ上ケタル醬油へ番水鹽水等ヲ混和シ火入ヲ爲シタルトキヲ謂フ溜リハ礫石數ニ據リ製成ノ分合ヲ定メ其石數ヲ檢査スヘシ

○第七章 菓子

○第一款 菓子稅則取扱心得書

▲明治十八年十二月大藏省達第八拾號 府縣函館縣沖繩縣札幌縣
本年(五月)當省第貳拾四號達菓子稅則取扱心得書第五號離形中左ノ通更正ス

菓子賣上金高届書

一賣上代金

何圓

但營業人へ賣渡シタル分

(小賣兼業ノ者ナルトキハ)

一賣上代金

何圓

但小賣ノ分

賣上代金合計

何圓

右相達候事

○第八章 賣藥

○第一款 阿片買上及拂下價格

▲明治十八年十二月內務省告示第七拾四號

阿片製造人ヨリ買上クヘキ内國產濕潤阿片價格并地方廳及衛生局試驗所ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下クル粉末阿片價格ノ儀明治十二年(四月)衛生局第九號及明治十三年(四月)同局第十四號ヲ以報告候處明治十九年一月一日ヨリ更ニ左ノ通相定候條此旨告示候事

買上價格

濕潤阿片 百分中六以上七分未滿ノ 百目ニ付金四圓五拾錢

但モルヒネノ含量一位ヲ増ス毎ニ本價ノ一割ヲ加フ

拂下價格

粉末阿片 乃至十分ノモルヒネノ含量九 壹匁入壹瓶ニ付金拾錢

○第二類○商法編○菓子稅則取扱心得書○阿片買上及拂下價格八百三十七

粉末阿片モルヒネノ含量十一 壹匁入壹瓶ニ付金拾貳錢
乃至十二分ノモノ

○第九章 煙草

○第一款 煙草印紙燒却手續

▲明治十九年二月大藏省達第十三號府縣東京府長崎縣栃木縣沖繩縣長野縣山口縣福岡縣佐賀縣ヲ除ク
明治十六年六月太政官第拾八號ヲ以舊煙草五厘壹錢五錢印紙當分新舊取
交使用スヘキ旨布達ノ趣モ有之處該印紙賣捌殘餘ノ分ハ不取締無之様左
ノ手續書ニヨリテ燒却取計其結了ノ趣届出ヘシ

煙草印紙燒却手續書

- 一 舊煙草五厘壹錢五錢印紙郡區役所等賣捌殘餘ノ分ハ悉皆(府縣廳)取
纏ムヘシ
- 一 郡區役所等ヨリ取纏メ濟ノ上ハ(府縣)廳殘餘ノ分ト合算シ計算表殘高
ト對照シ相違ナキヲ見認メ適宜枚數ヲ定メ封包ノ上主任者及收稅長立
會封印スヘシ
- 一 前二項ノ手續ヲ了セハ(府縣)廳構内適宜ノ場所ヲ撰ミ主任者及收稅長
立會ノ上燒却スヘシ

一 燒却濟ノ上ハ種類枚數年月日ヲ記載シ長官名印ヲ以テ申報スヘシ

○第二款 煙草稅則取扱心得書

▲明治十八年六月大藏省達第貳拾七號

府 縣

明治十六年(四月)當省第貳拾號達煙草稅則取扱心得書第四項刪除ス
右相達候事

○第三類 ○商法編 ○煙草印紙燒却手續 ○煙草稅則取扱心得書 八百三十九

○第四類 訴訟編

○第一章 裁判權限

○第一款 民事裁判執行命令書

▲明治十八年七月內務省達甲第貳拾六號

警視廳 府縣東京府ヲ除ク

民事上裁判執行ヲ遂ケサル者アルハ權利者ヨリ執行命令書ノ下付ヲ請求スル場合ニ於テハ裁判所ハ嚮ニ權利者ニ下付シタル裁判言渡書寫ノ末尾ニ左式ノ如キ命令書ヲ添付シ契印ヲ捺シ下付スヘキ筈ニ付權利者ニ於テ之ヲ提供シ義務者所轄ノ警察署ニ願出ルルハ警察官ニ於テ別ニ裁判所ノ照會ヲ須クス直ニ義務者ヲシテ該裁判ノ通執行セシメ候様可致此旨相達候事

明治十八年七月廿八日

內務卿伯爵山縣有朋

執行命令書

當裁判所ハ誰某ヨリ誰某ニ對スル何々事件ニ付大審院(某控訴裁判所)(某始審裁判所)(當裁判所)ノ與ヘタル此裁判ノ執行ヲ命令スル者也

明治 年 月 日

某始審(治安)裁判所印

○第二章 裁判管轄

○第一款 裁判管轄區畫

▲明治十八年十二月布告第四十號

明治十六年(一月)第二號布告裁判所一覽表中左ノ通改正ス

一 札幌始審裁判所管内浦河治安裁判所ヲ日高國幌泉郡幌泉へ移シ幌泉治安裁判所ト稱ス

一 日高國沙流新冠靜内ノ三郡ヲ札幌治安裁判所ノ管轄ニ改ム
右奉 勅旨布告候事

▲明治十八年十月布告第三拾二號

明治十六年(一月)第貳號布告裁判所一覽表中左ノ通增補改正ス但新置裁判所開廳ノ期日ハ司法卿ノ告示ヲ以テ之ヲ定ム

一 佐賀始審裁判所管内伊萬里ニ治安裁判所ヲ置キ肥前國西松浦郡ヲ管轄ス

一 長崎始審裁判所管内大村ニ治安裁判所ヲ置キ肥前國東彼杵北高來兩郡ヲ管轄ス

一 鳥取始審裁判所管内倉吉ニ治安裁判所ヲ置キ伯耆國河村久米八橋ノ三郡ヲ管轄ス

○第四類 ○訴訟編 ○民事裁判執行命令書 ○裁判管轄區畫

一盛岡始審裁判所管内福岡ニ治安裁判所ヲ置キ陸奥國二戸郡及ヒ陸中國
南北九戸郡ヲ管轄ス

右奉 勅旨布告候事

▲明治十九年六月勅令第四拾五號

朕裁判所管轄區畫表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十五號

明治十六年(二月)第貳號布告裁判所管轄區畫表中福島始審裁判所若松支
廳管内若松治安裁判所管轄越後國東浦原郡ヲ新瀉始審裁判所新發田支廳
管内新發田治安裁判所ノ管轄トス

○第三章 出訴

○第一款 出訴期限

▲明治十八年六月內務省達甲第貳拾號 府 縣
地所質入書入建物船舶書入質ノ公證ヲ受ケタルモノハ出訴期限無之旨今
般太政官ノ裁令ヲ經候條爲心得此旨相達候事

○第二款 區町村費ニ關シ出訴方

▲明治十八年八月布告第貳拾貳號
函館札幌根室三縣ニ於テ區町村總代人ノ評決シタル協議費ノ怠納者ハ明
治十七年(五月)第拾五號布告ニ準シテ處分スヘシ其協議費ニ關シ不服ア
リテ出訴セントスルモノハ同年(七月)第貳拾三號布告ニ據ルヘシ
右奉 勅旨布告候事

(參看)

明治十七年五月第十五號布告ハ第一類第六章第拾款同年七月第二十三
號布告ハ第一類第六章第十一款ニ掲出ス

○第四章 身代限

○第一款 華族身代限處分條件

▲明治十八年十一月司法省丁第貳拾五號 始審裁判所 治安裁判所
民事裁判上ニ於テ華族及華族ノ子弟ヲ身代限處分ニ及ヒタル者有之候ハ
處分完結ノ上其旨直ニ宮内省華族局ヘ通牒可致此旨相達候事

○第四類 ○訴訟編 ○出訴期限 ○區町村費ニ關シ
出訴方 ○華族身代限處分條例

○第五章 代言

○第一款 代言人取扱手續

▲明治十九年六月司法省令丙第七號

裁判所

明治十三年五月當省丙第八號達代言人取扱手續第七條中及ヒ以下ノ十四字ヲ刪除ス

○第五類 刑法

○第一章 罰則

○第一款 船舶信號器製造罰則

▲明治十九年六月遞信省令第拾貳號

明治十八年(八月)第二十七號布告海上衝突豫防規則改正追加ニ記載シタル信號器中星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭信號焰管及ヒ轟彈ハ遞信省ノ許可ヲ受ケタルモノニアラサレハ之ヲ製造スルヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○第二款 海底電信萬國條約罰則

▲明治十八年七月布告第拾八號

海底電信線保護萬國聯合條約罰則別冊ノ通制定ス

但施行ノ日ハ追テ布告スヘシ

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

海底電信線保護萬國聯合條約罰則

第一條 條約第二條ヲ犯シタル者ハ刑法第百六十四條ノ例ニ照シテ處斷

○第四類 ○訴訟編 ○船舶信號器製造罰則

シ其未タ遂ケサルモシハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

其疎虞懈怠ニ因ル者ハ電信條例第五十九條第二項ニ照シテ處斷ス

第三條 疎虞懈怠ニ因リ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者ハ其船舶ノ初テ到着シタル地ノ管轄廳(外國ニ於テハ其地駐在ノ領事館)ニ二十四時以內ニ届出ヘシ之ヲ届出サル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 自己ノ生命或ハ船舶ヲ保護スル爲メ已ムテ得スシテ海底電信線ヲ切斷損壞シタル者亦前條ニ依テ届出ヘシ之ヲ届出サル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 條約第五條第一項第二項第三項及第六條ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

條約第五條第一項ヲ犯シ因テ他ノ船舶ヲシテ海底電信線ヲ切斷損壞ニ至ラシメタル電信船ノ船長ハ一等ヲ加フ

第五條 條約第十條ニ依リ書類ヲ見ント要求スルトキ之ヲ示スコトヲ拒ミタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ暴行脅迫ヲ以テ拒ミタル者ハ刑法第三百二十九條ニ照シテ處斷ス

第六條 此罰則ニ掲ケタル罪ヲ犯シタル者ハ犯人所屬ノ船舶定繫港又ハ

其船舶所在地ノ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ審判ス

○第二章 禁令

○第一款 金銀貨幣取引禁令

▲明治十八年十一月布告第三拾九號

明治十二年(九月)第三拾七號第三拾八號布告及同十六年(七月)第二拾五號布達ヲ以テ東京大坂橫濱神戸各株式取引所ニ於テ當分金銀貨幣取引差許置候處明治十九年一月一日ヨリ右取引ヲ禁止ス
右奉 勅旨布告候事

○第二款 日本形船製造禁令

▲明治十八年七月布告第拾六號

日本形五百石以上ノ船舶ハ明治二十年一月ヨリ其製造ヲ禁止ス
右奉 勅旨布告候事

○第三款 私設燈標禁令

○第四類 ○刑法 ○金銀貨幣取引禁令 ○日本形船製造禁令 ○古着襤褸輸送禁令

▲明治十八年六月布達第拾壹號

明治五年(十月)第三百拾貳號布達ヲ廢止シ自今燈標私設ヲ禁止ス

但既設燈標ニシテ從前船舶ヨリ其費用ヲ徵セサルモノハ來ル明治二十年ヲ限リ廢止シ其費用徵收願濟年限ナキモノハ此際相當ノ期限ヲ定メ更ニ工部省ヘ願出ヘシ
右布達候事

○第四款 古着襤褸輸送禁令

▲明治十八年九月內務省達甲第三拾壹號

警視廳府縣

虎列刺病流行ノ際ニ於テハ其流行地方ヨリ古着及ヒ襤褸ヲ他ノ健康地ニ輸送スルコトヲ禁止スヘシ
此旨相達候事

○第六類 治罪法

○第一章 治罪法

○第一款 札幌根室裁判所治罪手續

▲明治十八年十月布告第三拾三號

自今札幌根室始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク但治罪ノ手續ハ當分ノ内便宜取計フヘシ
右奉 勅旨布告候事

○第二款 釧路集治監治罪手續

▲明治十八年十二月布告第四拾貳號

釧路集治監ノ囚人(假出獄免幽閉ノ者トモ)罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ
但重罪ハ根室重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス
右奉 勅旨布告候事

○第三款 違警罪即決例

○第六類 治罪法

○札幌根室裁判所治罪手續
○釧路集治監治罪手續

▲明治十八年九月布告第三拾壹號

明治十四年(九月)第四拾四號布告及ヒ同年(十二月)第八拾號布告ヲ廢止シ
違警罪即決例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

違警罪即決例

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯
シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直
チニ其言渡ヲ爲スヘシ

又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直
チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコ
トヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年
月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言
渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立

書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタル
ヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内ト
ス

第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關
スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ
言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數
條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサ
ル者ハ一圓チ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ
一日ニ計算ス

第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日チ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ
金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サ、ル者ハ第五條ニ定メタ
ル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス
第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シ
テ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フ

○第六類○治罪法○違警罪即決例○罰金及ヒ追徴ニ係ル上告八百五十一

第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十三條 留置ノ日數ハ一日チ一圓ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

○第四款 罰金及追徴ニ係ル上告

▲明治十九年六月勅令第四拾六號
朕罰金及追徴ニ係ル上告豫納金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽
勅令第四十六號

罰金及追徴ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲サントスルトキハ其罰金及追徴金ノ十分ノ一ニ當ル金額ヲ上告趣意書ニ添へ原裁判所書記局ニ預置ク可シ否ヲサレハ上告ヲ爲スコトヲ得ス若シ上告不當ナルトキハ大審院ニ於テ其全部又ハ幾分ヲ没入スルノ言渡ヲ爲スヘシ

○第五款 沒收物件處分條件

▲明治十八年九月內務省達甲第三拾二號 府 縣

犯則ニ由リ官沒シタル物件ヲ裁判所ノ囑托ニ依リ戶長ニ於テ公賣取扱タル節右公賣ニ關スル費用(物件看守者ノ手當并藏敷料筆墨紙薪炭油雜費)ハ其裁判所ノ費用ニ相立ヘキモノニ付戶長役場費ヨリ支辨セサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

府 縣

▲明治十八年十一月達第六十三號
裁判所ニ於テ犯罪又ハ犯則ニ依リ沒收シタル物件ハ自今都テ地方廳ニ引繼地方廳ニ於テ便宜之ヲ賣却スヘシ此旨相達候事

大審院 裁判所

▲明治十八年太政官第六十三號達ヲ以テ沒收物件ハ都テ地方廳ニ引繼シヘキ旨被相定候ニ付テハ自今該物件ハ書記局ニ於テ會計主任ヘ引渡スヲ要セス直ニ地方廳ニ引繼シヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但地方廳ニ引繼ヲ爲スマテ會計主任ヘ一時其物件ノ假預ケ等ヲ爲スハ格別ナリトス

▲明治十八年七月司法省達丙第六號

大審院 裁判所 警視廳 府縣 東京府 憲兵本部
沒收物件處分ノ義ニ付左ノ通太政官ヘ相伺候處朱書ノ通御裁令相成候條自今處分方心得ノ爲メ此旨相達候事

○第六類 ○治罪法 ○沒收物件處分條件

沒收物件處分之義ニ付伺

刑事裁判上沒收ニ係ル物件ハ破壊廢毀(燒棄之分)之後若シハ原形之儘總テ公賣ニ付シ其代金ハ雜收入トシテ國庫ニ納付ス可キノ成規ニ有之候處今般警視總監大迫貞清ヨリ別紙之通上申相成候因テ審按スルニ犯罪ノ用ニ供シタル器具ニシテ異種ニ屬スルモノ、如キハ警察官ニ於テ豫テ其製造法及用方等ニ注意シ置クキハ犯罪捜査上便利ヲ得ルコト尠カラズ犯迹ニ因テ使用ノ器具如何ヲ推知シ隨テ犯人ノ誰タルコトヲ發見スルノ場合亦之レナシトセサレハナリ且右異種ニ屬スル器具ノ如キハ其儘人民ニ私有セシムルキハ其危險測ル可カラサルヲ以テ必ス先ツ破壞スルニ非サレハ公賣ス可カラサルモノトス已ニ之ヲ破壞センカ餘ス所ハ唯其原質物ノミ之ヲ公賣スルモ當ニ手數ヲ煩ハスノミニシテ巨額ノ收入ヲ得難キヤ明瞭ナリ就テハ自今檢察官ニ於テ犯罪ノ府ニ供シタル物件ノ異種ニ屬スル者其他警察上注意ヲ要スルモノト認メタルキハ之ヲ警視廳若シハ警察署ニ交付シ保存セシメ候様致度右ハ雜收入ニモ關係候義ニ付一應相伺候條至急何分ノ御指令相成度候也

明治十八年六月九日

太政大臣公爵三條實美殿

司法卿伯爵山田顯義

指令

(朱書)

伺ノ通

明治十八年七月六日

犯罪ノ用ニ供シタル器具之義ニ付上申

犯罪ノ用ニ供シタル器具ノ種類如何ヲ詳知スルハ犯跡鑑定等警察上最モ必要ノ事ニ付キ爾後其異種ニ屬スルモノハ之ヲ蒐集シテ當廳ニ保存致度就テハ當地方各裁判所ニ於テ沒收物品ノ内右等ノモノ有之節ハ其都度當廳へ差廻候様御達置相成度此段上申候也

明治十七年十二月十五日

警視總監大迫貞清

司法卿伯爵山田顯義殿

○第六款 沒收物件取扱手續

▲明治十九年四月大藏省訓令第三號

北海道廳 府縣

明治十八年十一月太政官第六十三號達犯罪又ハ犯則ニヨリ沒收シタル物件ハ左ノ手續ニ據リ取扱フヘシ

第一項 裁判所ヨリ沒收物件引渡ノ通知ヲ得タルトキハ其物件受取ノ

○第六類○治罪法○沒收物件取扱手續

手續ヲ爲シ物件ノ性質ニ從ヒ得失ヲ量リ其應ニ取寄セ又ハ其所在地ノ戸長ニ保管セシムヘシ

第二項 沒收ノ物件ハ裁判所ヨリ受取タル後三箇月以内ニ於テ公賣ニ付スヘシ但公賣ノ場所ハ物件所在ノ地ニ限ラズ總テ適當ノ地ヲ選定スルモノトス

第三項 沒收物件中官廳ノ烙印アルモノハ公賣ニ付スル前其烙印ヲ削除スヘシ

第四項 公賣ノ方法ハ入札拂若クハ競賣ニ據ルヘシ

第五項 沒收ノ物件公賣ニ付スルモ買受人ナキカ若クハ代價相當ノ價格ニ達セサルトキハ公賣ヲ停止シ爾後三箇月以内ニ於テ更ニ公賣ニ付スヘシ

第六項 沒收物件中毀損腐敗ニ係リ若クハ物品輕微ニシテ公賣ニ付スルモ價值ナシト認ムルモノ或ハ運搬費置場敷料ヲ要シ公賣スルモ其得失相償ハサルモノ或ハ第五項期限内ニ於テ公賣ニ付スルモ買受人ナク若クハ代價不相當ニシテ公賣ヲ停止シタルモノハ適宜處分スヘシ

第七項 沒收物件中其物品取扱上特ニ成規アルモノハ各主管廳ノ指揮ニ據リ之ヲ處分スヘシ

○第七款 裁判言渡贍本費用

▲明治十八年十二月司法省達丙第拾號 裁判所 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)
明治十五年(二月)當省丙第拾貳號ヲ以テ違警罪裁判言渡書ノ贍本又ハ其拔書ヲ下付ス可キ費用ハ當分徴收ス可カラサル旨相達置候處本年(九月)第三拾壹號ヲ以テ違警罪即決例公布相成候付テハ自今該裁判ノ正式ニ係ルモノハ該費用ヲ徴收シ其即決ニ係ルモノハ從前ノ通取計可シ此旨相達候事

○第八款 司法警察細則取設ノ件

▲明治十九年四月司法省訓令第壹號 警視廳 北港道廳 府縣東京府ヲ除ク
爾後各地方ノ便宜ニ基キ司法警察ニ關スル細則ヲ設ケントスルトキハ其地始審裁判所檢事ト協議ノ上告達スヘシ
右訓令ス

○第二章 監獄則

○第一款 假出獄停止手續

○第六類 ○治罪法 ○裁判言渡贍本費用 ○司法警察細則取設ノ件 ○假出獄停止手續

▲明治十八年九月司法省達内第七號 警視廳 府縣東京府 集治監
假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者アルキハ左ノ手續ニ依リ處分スヘシ
此旨相達候事

假出獄停止手續

第一條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ後
現ニ之ヲ管束スル所ノ典獄ニ於テ直チニ假出獄ノ停止ヲ申渡シ當初下
付シタル假出獄ノ證票ヲ取上クヘシ

第二條 典獄ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキハ其事狀ヲ具シ内務司法兩
卿ニ開申スヘシ

第三條 甲地方ニ於テ假出獄ヲ許シタル者ヲ乙地方ニ於テ停止シタルト
キハ乙地方典獄ヨリ其事狀ヲ甲地方典獄ニ通知シ假出獄ノ證票ヲ送致
スヘシ

第四條 前條ノ場合ニ於テ乙地方監獄ニ拘禁スルトキハ其監ノ新入者ト
ナシ本刑後刑共乙地方ニ於テ執行スヘシ
假出獄停止申渡書式

刑名

府縣族籍

年 齡 某

其方儀受刑以來獄則ヲ謹守シ改悛ノ狀著明ナルニ由リ何年 月 日假
出獄ヲ許シ其證票ヲ與ヘタル處復タ重(輕)罪ヲ犯シ拘禁ニ就クヲ以テ
其出獄ヲ停止シ證票取上候事

某 集治監

典獄 何

某 印

甲地方ニ於テ假出獄ヲ許シタル者ヲ乙地方ニ於テ停止ノ申渡ヲ爲スト
キノ書式

府縣族籍

何

某

年 齡

其方儀何年 月 日某 集治監
監獄署ニ於テ假出獄ヲ許シ其證票ヲ與ヘタル處
復タ重(輕)罪ヲ犯シ拘禁ニ就クヲ以テ其出獄ヲ停止シ證票取上候事

某 集治監

典獄 何

某 印

○第二款 北海道集治監

▲明治十八年九月達第五拾貳號

官省院廳府縣

○第四類 ○訴訟編 ○北海道集治監 ○留置囚徒ニ係ル費用 八百五十九
○刑死者遺体解剖ノ事 ○囚徒死亡者取扱方

根室縣管下釧路國川上郡熊牛村へ已決監ヲ設置シ釧路集治監ト名稱候條此旨相達候事

○第三款 留置囚徒ニ係ル費用

▲明治十八年九月十日内務省達番外 警視廳 府縣東京府沖繩縣北海道三縣ヲ除ク 懲役終身ノ刑又ハ徒刑ニ處セラレタル女囚ハ當分地方監獄ニ留置シ其囚徒ニ係ル一切ノ費用ハ從前ノ通國庫費ヨリ支辨候條此旨相達候事

○第四款 刑死者遺体解剖ノ件

▲明治十八年七月内務省達甲第貳拾五號 廳 府 縣 監獄則ニ掲クル所ノ刑死者及死亡者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ官公立醫學校若クハ病院ニ於テ該遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スルヲ得此旨相達候事 但屍體剖觀ノ後ハ縫理シテ原體ニ復シ不都合無之様取計ハシムヘシ

○第五款 囚徒死亡者取扱方

▲明治十九年二月内務省達甲第四號 廳 府 縣東京府ヲ除ク

徒刑流刑禁獄ノ刑ニ處セラレタル者アルトキハ監獄則第五十八條ニ依リ申報シ及ヒ該囚徒拘禁中死亡セルモノアルトキハ其都度届出來リシ處自今以後總テ其儀ニ及ハス但變死ニ係ル者ハ從前ノ通届出ヘシ

集治監 假留監

▲明治十九年二月内務省達乙第壹號 其監拘禁ノ囚徒死亡スルモノアルトキハ其都度届出來リシ處自今以後其儀ニ及ハス但變死ニ係ル者ハ從前ノ通届出ヘシ

○第六款 犯人押送方

▲明治十九年六月内務省訓令第拾壹號 警視廳 府縣東京府沖繩縣ヲ除ク 舊刑法ニテ國事犯禁獄懲役五年以上及ヒ常事犯禁獄終身ニ處セラレタル囚徒地方監獄ニ拘禁ノ者ハ十七年當省乙第三十號達ニ準シ直ニ假留監ヘ押送スヘシ

(參看)

明治十七年七月内務省乙第二拾號達ハ續編第六類第一章第十款第二項ニ掲出ス

○第三章 軍 律

○第四類 ○訴訟編 ○犯人押送方 ○陸軍治罪法

○第一款 陸軍治罪法

▲明治十九年二月布告第六號

陸軍治罪法中左ノ通加除改正ス

第八條審事審事補ノ五字ヲ削ル

第九條改正

軍法會議ハ佐官一名ヲ判士長ト爲シ尉官四名ヲ以テ判士トス但被告
人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ左ノ表ニ照シテ判士長判
士ヲ更換ス

判士長	判士	被告人
佐官 一名	大尉若クハ中尉 二名	陸海軍少尉准士官及ヒ同等ノ軍人軍屬
佐官 一名	中尉 二名	陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
大佐若クハ中佐 一名	少尉 二名	陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
大佐 一名	中尉 二名	陸海軍少尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
少將 一名	大尉 二名	陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬

中將 一名	少將 二名	陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
中將 一名	中將 二名	陸海軍少將及ヒ同等ノ軍人軍屬
大將 一名	大將 一名	陸海軍中將及ヒ同等ノ軍人軍屬
大將 一名	大將 二名	陸海軍大將及ヒ同等ノ軍人軍屬

第十一條審事ノ二字ヲ削ル

第二十六條以下各條中審事ノ二字ヲ理事ニ改ム

第三十六條第一項改正

司令官被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ左ノ諸項ヲ除クノ外審判ノ命令ヲ下シ其事件ヲ理事ニ下付ス可シ

第三十七條第三十八條中審問ノ二字ヲ審判ニ改ム

第四十四條理事ヲ經テノ五字ヲ削ル

第五十三條改正

理事審問ニ於テ共犯若クハ餘罪ヲ覺察シタル時ハ直チニ之ヲ審問ス可シ但共犯ノ官等其審判ノ命令ヲ下シタル司令官ニ於テ命令ヲ下スコトヲ得サル者ニ係ル時ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

○第六類 ○治罪法 ○陸軍治罪法

第五十四條改正

理事審問ヲ終リ若クハ審問ヲ爲サスニテ直チニ判決ニ付ス可キ時ハ
意見書ヲ作り會議ノ日時ヲ定メ訴訟文書ト共ニ之ヲ判士長ニ交付シ
會議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ

其事件不問ニ付ス可キモノハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五十五條削除

第五十六條改正

軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士理事各其席ニ著キタル後判士長
被告人ヲ出廷セシメ之ヲ訊問シ若クハ判士ヲシテ其訊問ヲ爲サシム
可シ

第六十三條第二項第三項改正

法廷ニ於テ其犯若クハ餘罪ヲ覺察シタル時ハ直チニ其裁判ヲ爲シ若
クハ會議ヲ中止シ理事ニ移シテ其審問ヲ爲サシム可シ但其犯ノ官等
其審判ノ命令ヲ下シタル司令官ニ於テ命令ヲ下スコトヲ得サル者ニ
係ル時ハ判士長之ヲ司令官ニ具申ス可シ
第六十五條第六十九條條錄事ノ上理事ノ二字ヲ加フ

○第二款 軍人軍屬違警罪處分例

▲明治十九年五月勅令第四拾四號

朕陸軍軍人軍屬違警罪處分例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十四號

陸軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ
於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲ス
可シ

第二條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直チニ其
所屬ノ長官若クハ隊長ニ通知ス可シ

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ
得其裁判管轄ハ陸軍治罪法ニ從フ

第四條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪即決例第五條ニ記載シタル期
限内ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警
察署ニ差出ス可シ

第五條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十
四時内ニ訟訴ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ所管司令官ニ送致

○第六類○治罪法○軍人軍屬違警罪處分例

ス可シ

第六條 軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

第七條 即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ隊長ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得

第八條 軍法會議ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

○第三款 鎮守府軍法會議權限

▲明治十九年二月布告第五號

明治十七年(三月)第八號布告海軍治罪法第七條中東京軍法會議ハ當分ノ内之ヲ閉鎖シ該會議ノ權限ニ屬スル事件ハ鎮守府軍法會議ノ審判ニ付ス奉 勅

○第四款 海軍會同審問規則

▲明治十九年四月海軍省令第二拾六號

海軍一般

明治十八年(五月)第十二號布告第五條ニ基キ左ノ會同審問規則ヲ定ム

會同審問規則

第一條 會同審問ハ鎮守府司令長官艦隊司令官若クハ東京軍法會議判士長ノ具申ニ因リ海軍大臣ヨリ陸軍大臣若クハ司法大臣ニ協議ノ上之ヲ開クモノトス

第二條 鎮守府司令長官艦隊司令官若クハ東京軍法會議判士長會同審問ヲ要スル者ト認ムル時ハ意見書ニ訴訟書類ヲ添ヘ海軍大臣ニ具申ス可シ

第三條 鎮守府司令長官艦隊司令官若クハ東京軍法會議判士長陸軍軍法會議若クハ普通裁判所ニ於テ開ク審問ニ付キ會同ヲ要スル者ト認ムル時ハ其意見ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ

第四條 會同官ハ鎮守府司令長官艦隊司令官若クハ東京軍法會議判士長其部下ノ將校ニ之ヲ命スルコトヲ得若シ部外ノ者ヲ要スル時ハ海軍大臣ニ申請ス可シ

第五條 會同官ハ豫審ニ會同スルモノトス

第六條 會同官訊問上必要ト認ムル事項ハ法庭外ニ於テ豫審判事理事ニ對シ訊問ヲ要求スルコトヲ得

第七條 會同官ハ審判ノ景况及雙方人心ノ關係等詳細ニ記錄シ鎮守府司

○第六類 ○治罪法 ○鎮守府軍法會議權限 ○海軍會同審問規則 八百六十七

令長官艦隊司令官若クハ東京軍法會議判士長ニ具申シ鎮守府司令長官艦隊司令官若クハ東京軍法會議判士長ハ之ヲ海軍大臣ニ具申ス可シ

○第五款 軍律處刑者解禁ノ件

▲明治十八年六月布達第拾貳號

舊海陸軍刑律ニ依リ奪官及ヒ回籍ノ刑ニ該リ文武大小ノ員ニ補スルヲ禁セラレ又ハ武官大小ノ員ニ補スルヲ禁セラレタル者宣告ノ日ヨリ五年ヲ過クルノ後悔改ノ情狀ニ因リ其禁ヲ解クコトアルヘシ
右布達候事

○第六款 軍人軍屬犯罪者遞傳護送方

▲明治十八年九月海軍省達内第四拾七號

海軍一般

海軍々人軍屬ノ罪犯ニシテ遠隔ノ地ニ送致スヘキ者アル時ハ自今警察署ヘ依頼シテ遞傳護送スヘシ其費用返辨方警視廳又ハ地方廳ヨリ請求スル節ハ艦隊ニ屬スルモノハ會計局ニ於テ艦船費ヲ以テ償還シ其他ハ同局ヨリノ通知ニ依リ其裁判管轄ノ廳ヨリ直ニ償還スヘシ此旨相達候事

○第七款 囚徒費用支辨方

▲明治十九年一月内務省達甲第壹號

警視廳 府 縣

陸海軍軍法會議ニ於テ輕重懲役及ヒ剝官ヲ附加シタル禁錮ノ刑若クハ普通刑法ニ依リ懲役禁錮ノ處斷ヲ受ケ官職ヲ失ヒ軍籍ヲ除カレタル囚徒ニ係ル費用ハ來ル二十年度以後軍法會議所在地方ノ地方稅ヲ以テ支辨ス可シ
但從前陸海軍軍律ニテ處斷セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ明治十四年三月第拾七號公布ニ依リ區分シ陸海軍刑法ニテ徒刑流刑禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ國庫費ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ
右相達ス

現行
類聚

日本法律規則大全第三編

下卷畢

○第六類 ○治罪法 ○軍律處刑者解禁ノ件 ○軍人軍屬犯罪者遞傳護送方 ○囚徒費用支辨方

明治十九年九月七日出版御届
同年同月三十日刻成

定價金壹圓六拾錢

編纂人

岐阜縣士族

高木周次

當時大阪府下東區平野町二丁目
廿番地寄留

出版人

大阪府平民

岡島真七

大阪府下東區本町四丁目五十九番地

發兌人

岡島支店

同府下東區備後町四丁目三番地

手书 B-21

...

...

...

...

...

...

...

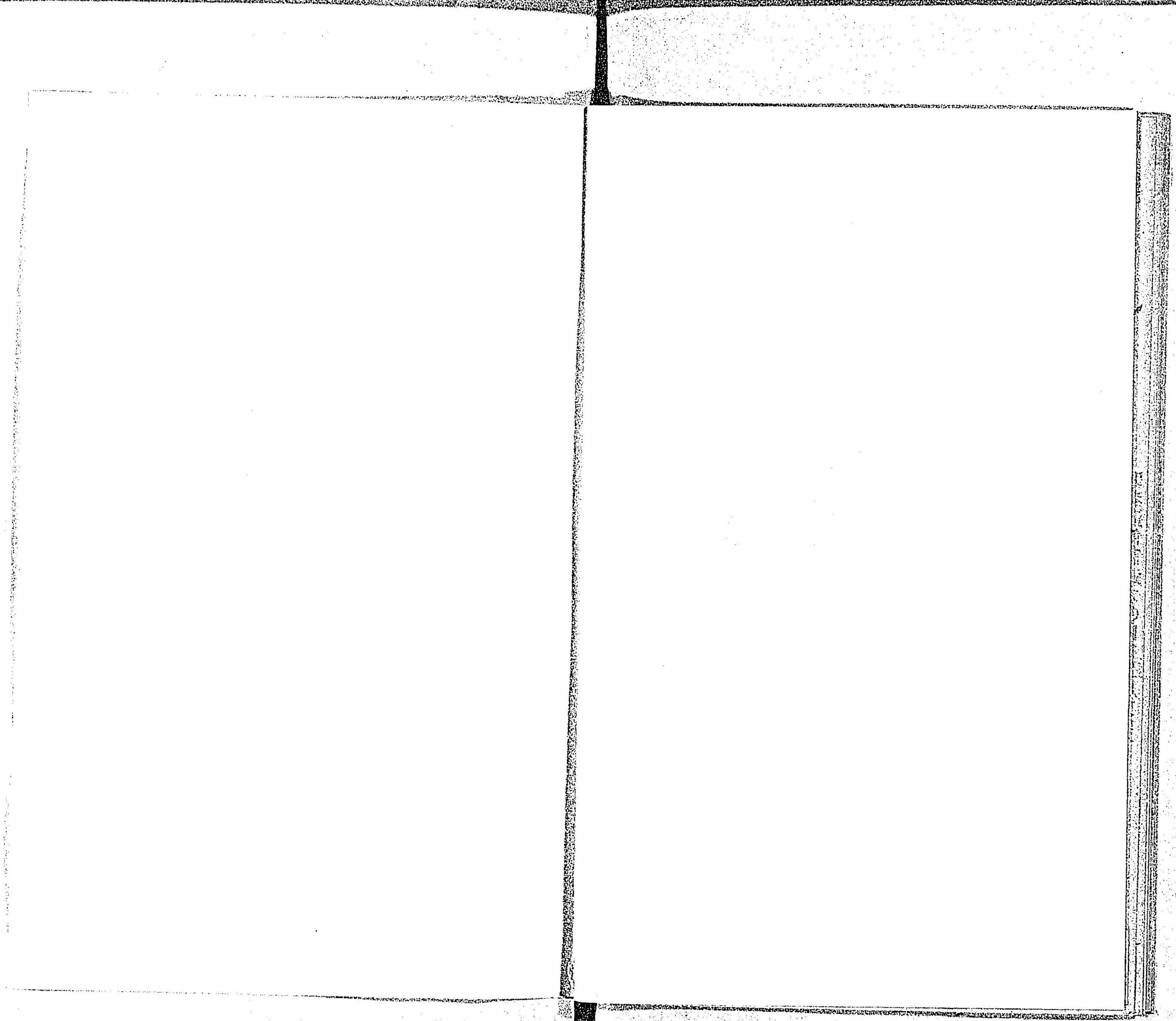
...

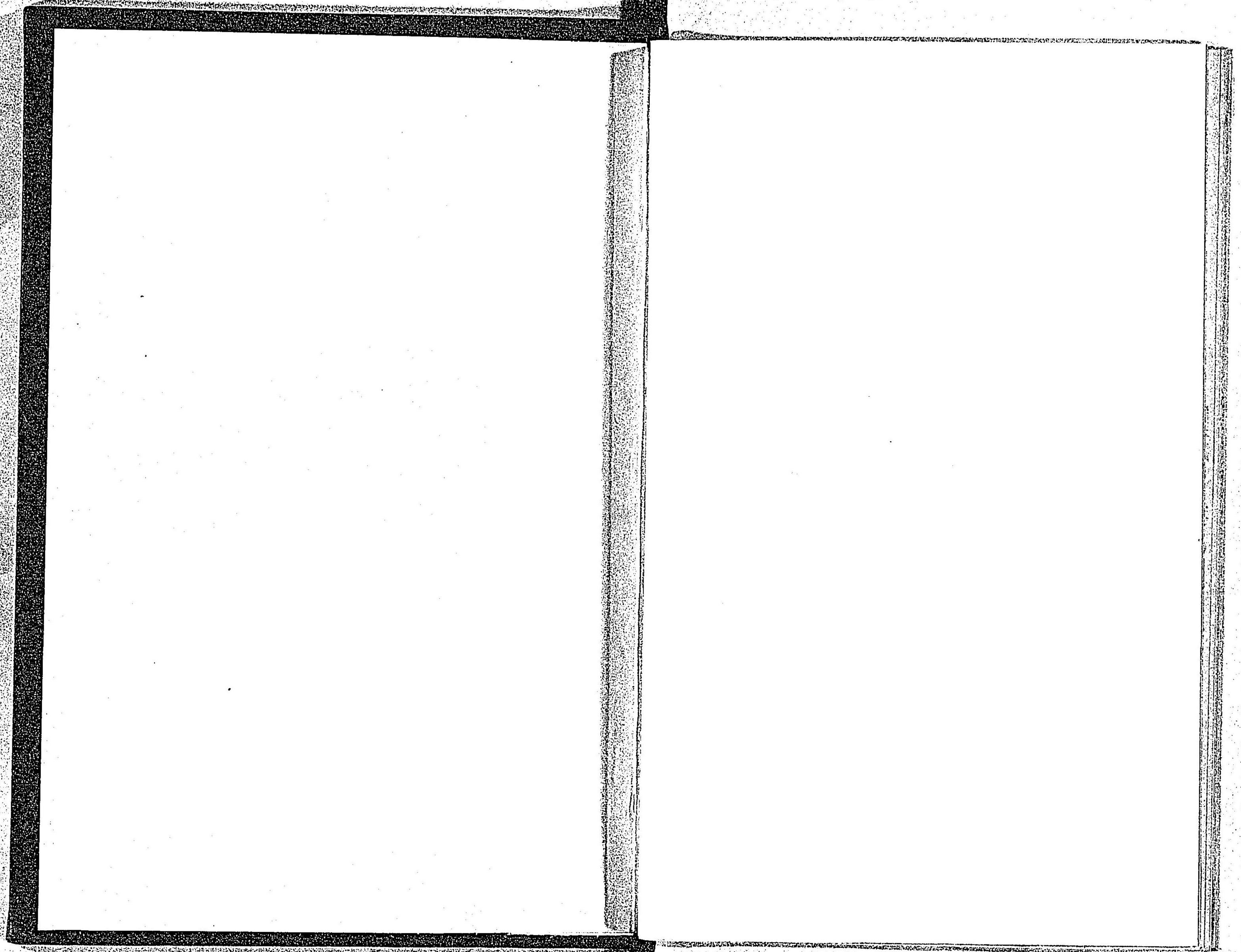
...

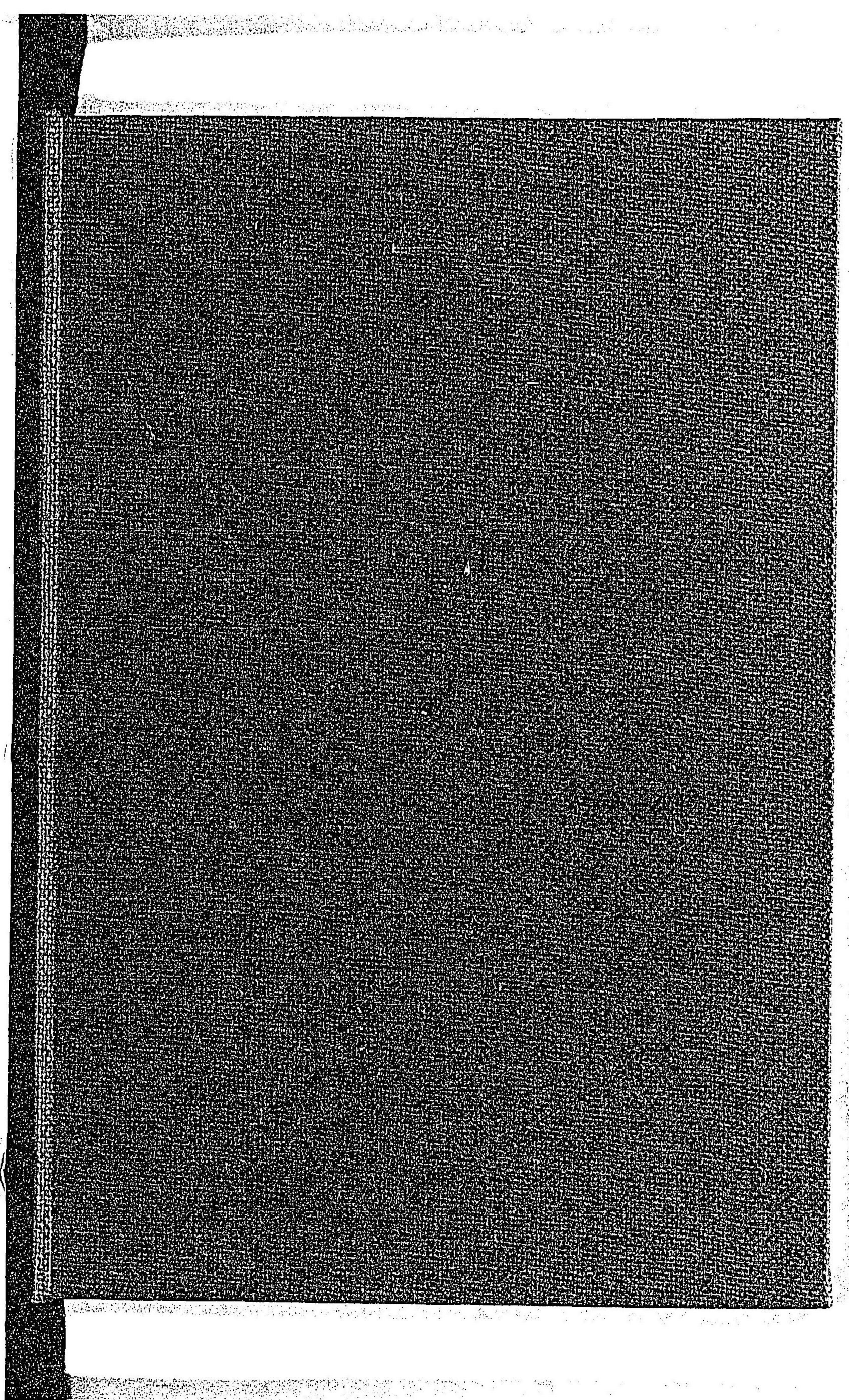
...

...

...







禁電子式複写

0.30968-006-4

CZ-3-08

現行類聚日本法律規則大全

高木 周次/編

M17-24

BBC-0348



